

Symantec™ ApplicationHA Agent for Oracle 設定ガイド

Hyper-V 上の Windows

6.1

Symantec™ ApplicationHA Agent for Oracle 設定ガイド

このマニュアルで説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

製品バージョン: 6.1

マニュアルバージョン: 6.1 Rev 0

法的通知と登録商標

Copyright © 2014 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、Checkmark ロゴ、Veritas、Veritas Storage Foundation、CommandCentral、NetBackup、Enterprise Vault、LiveUpdate は、Symantec Corporation または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載の製品は、ライセンスに基づいて配布され、使用、コピー、配布、逆コンパイル、リバースエンジニアリングはそのライセンスによって制限されます。本書のいかなる部分も、Symantec Corporation とそのライセンサーの書面による事前の許可なく、いかなる形式、方法であっても複製することはできません。

本書は「現状有姿のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性、不侵害の黙示的な保証を含む、すべての明示的または黙示的な条件、表明、保証は、この免責が法的に無効であるとみなされないかぎり、免責されるものとします。Symantec Corporation は、本書の供給、性能、使用に関する付随的または間接的損害に対して責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアと関連書類は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、Symantec により構内サービスとホスト型サービスのどちらとして提供されるかにかかわらず、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアと関連書類の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状態で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

目次

第 1 章	ApplicationHA エージェントの紹介	5
	ApplicationHA エージェントについて	5
	インテリジェントな監視フレームワークについて	6
	エージェント機能および属性について	7
	Oracle 向け ApplicationHA エージェントについて	7
	Oracle エージェントについて	8
	GenericService エージェントについて	13
	ApplicationHA エージェントによる Oracle の監視	13
第 2 章	アプリケーション監視の設定	14
	サポート対象の Oracle バージョン	14
	アプリケーション監視を設定する場合の注意事項	14
	アプリケーション監視の設定	16
索引	19

ApplicationHA エージェント の紹介

この章では以下の項目について説明しています。

- [ApplicationHA エージェントについて](#)
- [インテリジェントな監視フレームワークについて](#)
- [エージェント機能および属性について](#)
- [Oracle 向け ApplicationHA エージェントについて](#)
- [ApplicationHA エージェントによる Oracle の監視](#)

ApplicationHA エージェントについて

エージェントはアプリケーション固有のモジュールであり、設定されたアプリケーションのコンポーネントを管理する ApplicationHA フレームワークにプラグインします。

このエージェントは ApplicationHA のインストール時にインストールされます。これらのエージェントは、設定されたアプリケーションのコンポーネントの開始、停止、監視を行い、その状態の変化を報告します。アプリケーションまたはコンポーネントが失敗すると、これらのエージェントは仮想マシン上のアプリケーションおよびそのコンポーネントを再起動します。

仮想マシンにはコンポーネントごとに1つのエージェントがあり、そのタイプのすべてのコンポーネントを監視します。たとえば、1つの **GenericService** エージェントは、**GenericService** コンポーネントを使用して設定されたすべてのサービスを管理します。エージェントは、起動時にこれらのコンポーネントから必要な設定情報を取得し、設定されたアプリケーションを監視します。次にエージェントは、コンポーネントとアプリケーションの状態を使用して定期的に ApplicationHA をアップデートします。

エージェントは、次の操作を実行します。

- コンポーネントをオンラインにします
- コンポーネントをオフラインにします
- コンポーネントを監視し、状態の変化を報告します

ApplicationHA エージェントは次のカテゴリに分類されます。

- インフラのエージェント(付属エージェント)
インフラのエージェントは、ベースのソフトウェアにパッケージ(付属)され、マウントポイント、汎用サービスおよびプロセスのためのエージェントを含んでいます。これらのエージェントは、ApplicationHA のインストール後すぐに使用できます。
- Application エージェント
アプリケーションエージェントは、Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange などのサードパーティアプリケーションの監視に使われます。これらのエージェントは個別にパッケージ化されており、ApplicationHA をインストールすると、インストール可能なエージェントパックの形で利用可能です。
エージェントパックは年 4 回リリースされます。エージェントパックは新しいアプリケーションのサポートのほか、既存のエージェントへの修正と拡張が含まれています。既存の ApplicationHA のインストールでエージェントパックをインストールできます。最新のエージェントパック利用状況については、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) の Web サイトにアクセスしてください。
<https://sort.symantec.com>

<code><remark>doc_bundledagent;format_print</remark>" id="8"/>このマニュアルには、ApplicationHA の付属エージェントが、そのリソースタイプ定義、属性定義、およびサンプル設定とともに記述されます。

インテリジェントな監視フレームワークについて

ApplicationHA は、設定済みのアプリケーションおよびそのコンポーネントの状態を判断するためのインテリジェントな監視フレームワーク(IMF)を提供します。IMF は、カスタムおよびネイティブオペレーティングシステムベースの通知メカニズムを使用して実装されるイベントベースの監視フレームワークを採用します。

IMF は即時の状態変更通知を提供します。ApplicationHA エージェントはこの状態変更を検出し、必要な処理をトリガします。

IMF は次のような利点を提供します。

- 即時の通知
エラー検出のスピード化によるフェールオーバーの加速およびアプリケーションダウンタイムの減少。
- 多数のコンポーネントを監視する機能
CPU 消費の減少により、IMF は多くのコンポーネントを効果的に監視します。

- システムリソース使用率の減少
 監視中のコンポーネント数が多い場合の ApplicationHA エージェントプロセスによる CPU 使用率の減少。これにより、システムリソースの使用率についてパフォーマンスが大幅に向上します。

エージェント機能および属性について

各エージェントには属性の集合があり、定義された機能を実行します。

属性は変数の集合で、その値によって、対応するアプリケーションコンポーネントが定義したとおりに実行するように設定されます。属性の値を変更すると、ApplicationHA エージェントがコンポーネントをどのように管理するのかを変更できます。

たとえば、IP エージェントは IP アドレスを監視します。監視する特定のアドレスは、値が特定の IP アドレスである属性の「アドレス」によって識別されます。

エージェントが属するカテゴリに応じて、エージェントは以下のいずれかまたはすべての機能を実行します。

Online	設定されたコンポーネントをオンラインにします
Offline	設定されたコンポーネントをオフラインにします
Monitor	設定されたコンポーネントがオンラインであるかどうかを確認します

監視機能の一部として、エージェントは以下の状態を報告します。

ONLINE	設定されたコンポーネントがオンラインであることを示します
OFFLINE	設定されたコンポーネントまたはアプリケーションに障害が発生したことを示します
UNKNOWN	設定されたコンポーネントの監視中にエージェントがエラーに遭遇したことを示します

Oracle 向け ApplicationHA エージェントについて

Oracle 向けの Symantec ApplicationHA エージェントは、Oracle データベースとリスナーサービスの監視、オンライン化、オフライン化を行います。

ソリューションには次のエージェントがあります。

- Oracle データベースを監視する Oracle エージェント。
- リスナーサービスを監視する GenericService エージェント。

2 つのエージェントは、連携して Oracle 向けの高可用性を提供します。

Oracle エージェントについて

Oracle エージェントはデータベースを監視します。エージェントは、Oracle データベースをオンラインに切り替え、状態を監視し、オフラインに切り替えます。

Oracle エージェントは Oracle タイプのリソースとして設定されます。

Oracle エージェント関数

Online	Oracle サービスを起動します。
Offline	Oracle サービスを停止し、Oracle サービスに依存するすべてのサービスを停止します。
Monitor	<p>Oracle サービスの状態を確認します。</p> <p>このエージェントには、次の 2 つのアプリケーション監視レベルがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 基本監視 エージェントは Service Control Manager (SCM) に問い合わせ Oracle サービスが継続してアクティブ状態であることを確認します。 ■ 詳しい監視 エージェントは SQL スクリプトを実行してデータベースの状態を確認します。Oracle データベースの一時テーブルを更新してデータベースの可用性を確認します。
Clean	Oracle データベースを強制的に停止します。
Info	データベースの状態について静的または動的な情報を表示します。
Action	リソースで事前定義済みの処理を実行します。

Info 機能について

Info 機能はデータベースの状態について静的または動的な情報を表示します。

この関数は、次の静的な情報を取得します。

バージョン (Version)	インスタンス番号 (InstanceNo)
ホスト名 (HostName)	開始時間 (StartupTime)
パラレル (Parallel)	スレッド (Thread)
インスタンスの 役割 (InstanceRole)	インスタンス名 (InstanceName)

このエントリポイントでは、次の動的な情報を取得します。

インスタンスの状態 ログイン情報 (Logins)
 (InstanceStatus)

データベースの状態 シャットダウンの待機 (ShutdownPending)
 態
 (DatabaseStatus)

SQL 文を次のファイルに追加して、属性を加えることができます。次に例を示します。

```
%VCS_HOME%\bin\Oracle\scripts\info\db_info.sql
```

ここで、%VCS_HOME% は通常次のように展開します。

```
C:\Program Files\Veritas\Cluster Server
```

次に例を示します。

```
select 'static:HostName:'||host_name from v$instance;
select 'dynamic:ShutdownPending:'||shutdown_pending from v$instance;
```

選択したレコードの型は、次のようになります。

```
attribute_type:userkey_name:userkey_value
```

変数 **attribute_type** は、静的または動的のいずれかか、両方の性質を持った値にできます。

Action 機能について

Action 機能は、リソースに対して定義済みのアクションを実行します。

リソースで処理を実行するには、次のコマンドを入力します。

```
C:> hares -action resource_name token [-actionargs arg1 ...] [-sys system] [-clus cluster]
```

表 1-1 に、エージェントがサポートするアクションを一覧で示します。

表 1-1 Oracle エージェントによってサポートされるアクション

アクションのトークン	説明
DBRestrict	データベースのセッションを変更して、RESTRICTED モードを有効にします。
DBUndoRestrict	データベースのセッションを変更して、RESTRICTED モードを無効にします。
DBSuspend	データベースを一時停止します。
DBResume	一時停止していたデータベースを再開させます。

アクションのトークン	説明
DBQuiesce	データベースを静止状態にします。 メモ: データベースを静止状態にする前に、 <code>resource_manager_plan</code> パラメータを設定してデータベースを再起動する必要があります。
DBUnQuiesce	静止状態から通常の操作状態にデータベースを復元します。

Oracle エージェントリソースタイプの定義

次のセクションでは、Oracle エージェントのリソースタイプの定義について説明します。

```
type Oracle
static int IMF{} = { Mode=3, MonitorFreq=5, RegisterRetryLimit=3 }
( static keylist SupportedActions = { DBRestrict, DBUndoRestrict,
DBResume, DBSuspend, DBQuiesce }
static i18nstr ArgList[] = { ServiceName, DelayAfterOnline,
DelayAfterOffline, DetailMonitor, IndepthMonitorCount, SID, Domain,
UserName, EncryptedPasswd, SQLFile, SQLTimeOut }
str ServiceName
int DelayAfterOnline = 20
int DelayAfterOffline = 20
boolean DetailMonitor = 0
int IndepthMonitorCount = 5
str SID
str Domain
str UserName
str EncryptedPasswd
str SQLFile
int SQLTimeOut = 20
)
```

Oracle エージェント属性

表 1-2 は Oracle エージェントの必須属性をまとめたものです。

表 1-2 Oracle エージェントの必須属性

必須属性	定義
ServiceName	Oracle のインストール時に設定される Oracle サービスの名前。サービス名は <code>OracleService SID</code> の形式で指定され、 <code>SID</code> がデータベースを表します。 データ形式と値のタイプ: 文字列 - スカラー

必須属性	定義
Domain	コンテキストに Oracle がインストールされたユーザーが属するドメインまたはホストの名前。 データ形式と値のタイプ: 文字列 - スカラー
SID	詳細に監視される Oracle データベースを一意に識別するシステム識別子。 データ形式と値のタイプ: 文字列 - スカラー
UserName	Oracle のデータベース管理者権限を持つ Windows ドメインユーザーまたはローカルユーザーの名前。 データ形式と値のタイプ: 文字列 - スカラー
EncryptedPasswd	UserName によって識別されるユーザーのための暗号化パスワード。パスワードは VCSEncrypt ユーティリティで暗号化される必要があります。 データ形式と値のタイプ: 文字列 - スカラー

表 1-3 は Oracle エージェントの省略可能な属性をまとめたものです。

表 1-3 Oracle エージェントのオプション属性

オプション属性	定義
DelayAfterOffline	Oracle がオフラインになった後で監視ルーチンを開始するまでにエージェントが待機する秒数。 デフォルト = 20 秒 データ形式と値のタイプ: 整数 - スカラー
DelayAfterOnline	Oracle がオンラインになった後で監視ルーチンを開始するまでにエージェントが待機する秒数。 デフォルト = 20 秒 データ形式と値のタイプ: 整数 - スカラー

オプション属性	定義
DetailMonitor	<p>SQL スクリプトを実行してデータベースへのアクセスの確認を試みることでエージェントが Oracle を監視するかどうかを定義するフラグ。値 1 は、エージェントが Oracle を詳細に監視することを示します。値 0 は、エージェントが Oracle を詳細に監視しないことを示します。</p> <p>デフォルト: 0</p> <p>DetailMonitor フラグを 1 に設定する場合は以下の属性を定義する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SID ■ SQLFile <p>データ形式と値のタイプ: プール - スカラー</p>
IndepthMonitorCount	<p>2 つの連続する詳細監視サイクル間の間隔を定義する整数。この属性を 5 に設定すると、エージェントは 5 監視間隔ごとにアプリケーションの詳細監視を開始します。</p> <p>デフォルト: 5</p> <p>メモ: この属性の値が 1 以上に設定されていることを確認します。</p> <p>データ形式と値のタイプ: 整数 - スカラー</p>
SQLTimeOut	<p>詳細監視中に SQL スクリプトが値を戻すまでエージェントが待機する秒数。この制限を超えると、リソースに障害が発生したと宣言されます。</p> <p>デフォルト = 20 秒</p> <p>データ形式と値のタイプ: 整数 - スカラー</p>
SQLFile	<p>詳細監視に使用される SQL スクリプトの名前とその完全パス。エージェントはこのファイルが存在することを確認します。</p> <p>サンプルファイル check.sql は %VCS_HOME%\bin¥Oracle¥ にあります。</p> <p>ここで、%VCS_HOME% は通常、次の場所に展開されます。</p> <p>C:¥Program Files¥Veritas¥cluster server¥</p> <p>サンプルファイルの内容は次のとおりです。</p> <pre>select * from v\$database;</pre> <p>SQL スクリプトにはスプールコマンドを含めないでください。</p> <p>実行中に Oracle エラーが発生すると、エラーはエージェントログに記録されます。リソースのデバッグログも有効な場合は、SQL スクリプトの出力もエージェントログに記録されます。</p> <p>データ形式と値のタイプ: 文字列 - スカラー</p>

GenericService エージェントについて

GenericService エージェントはリスナーサービスを監視します。エージェントはデータベースのリスナーを制御します。リスナーとは、新規のクライアント接続要求を待機し、データベースに対するトラフィックを管理するサーバープロセスです。

GenericService エージェントは、リスナーサービスのオンライン化とオフライン化を行い、その状態を監視します。

GenericService エージェントは、**GenericService** タイプのリソースとして設定されます。

GenericService エージェントについて詳しくは、『Symantec™ ApplicationHA 付属エージェントガイド』を参照してください。

ApplicationHA エージェントによる Oracle の監視

基本監視モードでは、**Oracle** データベースの **Oracle** エージェントはデータベースが稼動していない場合に障害を検出し、**GenericService** エージェントはリスナーサービスが稼動していない場合に障害を検出します。詳細監視モードでは、エージェントは、事前設定済みの **SQL** スクリプトがデータベースを実行できない、またはデータベースにアクセスできない場合、あるいはリスナーサービスが稼動していない場合に障害を検出します。

詳細な監視の間隔は、**IndepthMonitorCount** 属性を使用して定義することができます。

データベースまたはリスナーサービスが失敗すると、設定可能な試行回数まで仮想マシン上で再起動が試みられます。起動しない場合、仮想マシン自体は、設定に応じて **VMware HA** によって再起動することができます。

設定に応じて、**Hyper-V** ホストは仮想マシンを再起動します。仮想マシンが再起動した後、エージェントは設定された **Web** サイトおよび関連付けられたアプリケーションプールを起動し、設定されたリソースをシステム上でオンラインにします。

アプリケーション監視の設定

この章では以下の項目について説明しています。

- サポート対象の Oracle バージョン
- アプリケーション監視を設定する場合の注意事項
- アプリケーション監視の設定

サポート対象の Oracle バージョン

ApplicationHA は次の Oracle バージョンをサポートしています。

メモ: 64 ビット Oracle インストールのみサポートされます。

- Oracle 10g リリース 2 (10.2.0.5.0)
- Oracle 11g リリース 2 (11.2.0.1.0, 11.2.0.2.0)
- Oracle 12c

サポート対象のバージョンの最新情報については、以下の場所にあるソフトウェア互換性リストを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH209010>

アプリケーション監視を設定する場合の注意事項

Symantec ApplicationHA には、アプリケーション監視を設定、管理するための Symantec ApplicationHA Health View というインターフェースがあります。

ApplicationHA をインストールすると、Health View にアクセスするためのショートカットがシステムのデスクトップに作成されます。Health View は Web ベースで、任意のブラウザを使ってアクセスすることができます。

次の URL でブラウザウィンドウから **Health View** に直接アクセスすることもできます。

https://VMNameorIP:5634/vcs/admin/application_health.html?priv=ADMIN

アプリケーション監視を設定する前に次の事項を考慮してください。

- 「**Virtual Machine**」ロールを、アプリケーション監視の設定を計画しているすべての仮想マシンにインストールします。
- アプリケーション監視の設定を計画しているすべての仮想マシンで「**Integration Services**」ロールが有効であることを確認します。
- **Windows Server 2008 R2** を実行する仮想マシンの場合は、統合サービスをアップグレードします。
- 仮想マシンのアプリケーション監視の設定は、**Symantec ApplicationHA** 設定ウィザードを使って行えます。ウィザードは、**Symantec ApplicationHA Health View** の [アプリケーション監視の設定 (**Configure Application Monitoring**)] をクリックすると起動します。
- このウィザードを使って監視を設定できるアプリケーションは、仮想マシン 1 台につき 1 つのみです。
 追加のアプリケーションに対するアプリケーション監視を同じ仮想マシン上で設定するには、**VCS** コマンドを使用する必要があります。
 ウィザードを使って別のアプリケーションを設定するには、まず既存のアプリケーション監視の設定を設定解除する必要があります。
- ウィザードはログオンユーザーのコンテキストで実行します。そのため、ログオンユーザーがアプリケーション監視を設定する仮想マシンで管理者権限を持っていることを確認する必要があります。
- ファイアウォールを設定した場合は、ファイアウォールの設定で必ず **Symantec ApplicationHA** インストーラ、ウィザード、サービスで使うポートにアクセスすることを許可します。
- アプリケーションデータが入れ子のマウントポイントに格納される場合、これらのマウントポイント間で依存関係を設定する必要があります。この設定によって、**ApplicationHA** ですべての入れ子のマウントポイントを監視できます。
 入れ子のマウントポイント間の依存関係を定義するには、**MountMonitor** エージェントの **MountDependsOn** 属性の値を設定する必要があります。この属性の値は、キーと値のペアで指定する必要があります。
 ここで、
Key= マウントのパス
Value= ボリューム名
- この場合、**VCS** コマンドを使ってコンポーネントをその既存の設定に追加でき、また既存の設定を解除してからウィザードを再実行してすべてのコンポーネントを設定することもできます。

メモ: アプリケーション監視を設定または設定解除しても、アプリケーションの状態には影響しません。アプリケーションは仮想マシンで影響を受けずに実行されます。

- **Oracle** を監視対象に設定した後で、別の **Oracle** データベースまたはリスナーサービスを作成した場合、この新しいコンポーネントは既存の設定の一部としての監視対象にはなりません。このような場合は、まず既存の監視設定を解除してから、ウィザードを使ってアプリケーションを再設定する必要があります。この後、すべてのデータベースを監視対象として選択できます。

アプリケーション監視の設定

Symantec ApplicationHA 設定ウィザードを使用して仮想マシン上の **Oracle** の監視を設定するには次の手順を実行します。

メモ: 単一のウィザードワークフローで複数のサービスおよびプロセスの監視を設定することができます。ただし、複数のアプリケーションを同時に設定することはできません。別のアプリケーションを設定するには、ウィザードを再び実行します。

Oracle のアプリケーション監視を設定するには

- 1 作成したショートカットを使って、またはブラウザ内で次の URL を使って、Symantec ApplicationHA Health View を起動します。

`https://VMNameorIP:5634/vcs/admin/application_health.html?priv=ADMIN`

- 2 Symantec ApplicationHA の設定ウィザードを起動するために、[アプリケーション監視の設定 (Configure Application Monitoring)] をクリックします。
- 3 [ようこそ (Welcome)] パネルの情報を確認してから、[次へ (Next)] をクリックします。
- 4 [アプリケーション選択 (Application Selection)] パネルの [サポート対象アプリケーション (Supported Applications)] リストで、[Oracle] をクリックします。

Oracle データベースとそれに関連付けられたリスナーサービスが実行中であることを確認します。

- 5 [Oracle データベースの選択 (Oracle Database Selection)] パネルで、監視する Oracle データベースを選択します。

メモ: [データベース SID (Database SID)] の選択時には、リストされたすべてのデータベースが選択されています。個々のデータベースごとに詳細を入力します。

次の詳細を入力した後、[設定 (Configure)] をクリックします。

ドメイン名またはホスト名 コンテキストに Oracle がインストールされたユーザーが属するドメインまたはホストの名前。

ユーザー名 Oracle のデータベース管理者権限を保持するドメインユーザーまたはローカルユーザーの名前。

パスワード ユーザーアカウントのパスワードを入力します。

設定ウィザードを使って選択したデータベースのスクリプトベースの詳細監視を有効にするには、[詳細監視を有効にする (Enable detail monitoring)] をオンにして、次の必須の詳細を指定します。

スクリプトパス 仮想マシン上の SQL スクリプトの場所を入力します。

... サイクルごとに監視 ゼロ以外の値を入力します。

(Monitor after every ... cycles) この値は、エージェントで詳細監視を実行するまでに待機する必要がある、オンライン監視サイクルの数を示します。

この数値には、監視チェックをどの程度の頻度で実行する必要があるかを指定します。たとえば、すべての監視間隔で詳細チェックを実行するには、数値の **1** を入力します。1 回おきの監視間隔で詳細チェックを実行するには、数値の **2** を入力します。この解釈は他の値にも同様に拡大できます。

この値は **1** から **12** までの値に設定することをお勧めします。デフォルト値は **5** です。

- 6 [ApplicationHA 設定 (ApplicationHA Configuration)] パネルで、ウィザードはアプリケーション監視の設定タスクを実行し、必要なリソースを作成し、Hyper-V ホストと通信するアプリケーションハートビートを有効にします。

パネルに各タスクの状態が表示されます。すべてのタスクを完了したら、[次へ (Next)] をクリックします。

設定タスクが失敗した場合は、[ログの表示 (View Logs)] をクリックして失敗の詳細を確認します。エラーの原因を解決し、ウィザードを再度実行してアプリケーション監視を設定します。

- 7 [完了 (Finish)] パネルで [完了 (Finish)] をクリックしてウィザードを完了します。

これで、監視するアプリケーションの設定が完了します。

アプリケーション状態を監視し、アプリケーション監視を制御するには ApplicationHA Health View を使用します。

詳しくは、『Symantec ApplicationHA 配備ガイド』を参照してください。

さ

設定

アプリケーション監視 14、16

な

について

ApplicationHA エージェント 5

ApplicationHA エージェント; IMF 6

Oracle の監視 13

インテリジェントな監視フレームワーク 6

エージェント機能および属性 7